



国立水俣病総合研究センター（国水研）
広報誌

とんとん峠

35号
(2012.12)

本号の特集では国水研の国際的な水銀研究振興への取り組みとして九月二十七日～二十八日に、「水銀の毒性や環境保健に関する最近の進歩」をテーマに開催した「*NIMDフォーラム」の様子を紹介します。とんとん峠を御覧になって頂き、少しでも国水研の活動を知って頂けたら幸いです。

国水研は、水俣病に関しての総合的な調査、研究、そして国内外の情報の収集、整理及び提供を行うこととこれらに関連する研修の実施を目的として環境省の機関として熊本県水俣市に設置されています。

国水研は、わが国の公害の原点といえる水俣病とその原因となったメチル水銀に関する総合的な調査・研究、情報の収集・整理・研究成果や情報の提供を行うことにより、国内外の公害の再発を防止し、被害地域の福祉に貢献することを目指しています。



目次

- 特集
- 『NIMDフォーラム』
- 国水研の動き（十月～十二月）
- 国水研からのお知らせ
- 健康メモ
- 編集後記
- アクセスマップ

※ NIMD（国立水俣病総合研究センターの英文名である National Institute for Minamata Disease の略）

●特集

『NIMDフォーラム』

山元 恵・新江 亮子

国水研では、毎年国内外の専門家を招いて、水銀に関するテーマで、公開研究発表会（NIMDフォーラム）を開催しています。今年度のNIMDフォーラムは、九月二七日〜二八日に、「水銀の毒性や環境保健に関する最近の進歩」をテーマに、「環境化学・環境毒性に関する国際学会」との共催で開催いたしました。

国際学会との共催ということもあり、講演者の半分以上はアジアから、講演の半分は毒性影響メカニズム、半分は環境保健分野の研究、というコンセプトで、海外の研究者七名（香港、台湾、ブラジル、デンマーク、アメリカ、カナダ）、国内の研究者三名及び国水研の研究者三名

の十三名が、四つのセッションにわかれて講演を行いました。最終的に十五の国・地域から延べ約百二十名の方々に参加いただき、質疑応答の時間には多くの質問が飛び交う活発なフォーラムとなりました。



質疑応答の様子

今回の参加者の大半は、水銀研究に従事しているわけではありませぬので、水銀研究の概要を知っていただくために、最初のセッションでは、「水俣病の歴史や補償制度、イタイタイ病や四日市ぜんそくなど、日本の公害病全般に関するオーバービュー」、次いで、「この二、三

年の水銀研究の動向において、特にトピックスとなった研究、すなわち魚の摂取に伴うリスクとメリットに関する公衆衛生学的な研究」、最後に、「メチル水銀による神経毒性への感受性、主として小児への影響に関する疫学的な研究動向」についての講演が行われました。



発表中のグランジャン氏

最初のセッション後には、ステイビジットを企画し、永本賢二さんによる語り部講話、坂本館長の案内による水俣病資料館の見学、そして親水護岸、百間排水口の見学を行い、水俣病の歴史を知っていただき

ました。語り部講話では、参加者全員が、永本さんの話に熱心に耳を傾け、多くの質問や水俣病に対する率直な意見が出されました。



水俣病資料館にて



親水護岸にて

二日目の最初のセッションでは、水銀の生体影響の解明を目的とした実験研究における成果として「コモンマーモセット、マウスやラットを用いた脳神経系におけるメチル水銀への応答因子に関する研究」、および動物実験と比較して実験の容易な「酵母を用いたメチル水銀への耐性遺伝子についての研究」が発表されました。

第三のセッションでは、「ブラジルのアマゾン川流域住民における水銀曝露と免疫系への影響に関する疫学的研究および実験研究」、つづいて「日本人を対象とした周産期におけるメチル水銀曝露と出生児の発達影響」、「アメリカに住むアジア人（日本人、韓国人コミュニティ）における魚介類摂取に関する疫学的研究と一般市民への情報の伝達手法」について発表されました。



会場の様子

最後のセッションでは、「中国小規模水銀鉱山における水銀蒸気への慢性曝露による神経運動機能への影響」、「アマゾン川流域の都市及び農村人口における水銀曝露の特性」、最後に、「母体血及び臍帯血中の水銀とドコサヘキサエン酸の濃度および出産時の母親の毛髪中の水銀濃度との関連」について発表が行われました。

今回、海外からの講演者の半数の方にとって初めての水俣訪問であり、「水銀研究に従事しているからには一度訪れるべきところであっ

た」とのことで、今後の協力を約束していただきました。また、休憩時間には、各国からの参加者同士が活発に意見交換をされており、水銀研究に関する関心の高さがうかがえました。会合と同じタイミングで発生した二つの台風の影響が危ぶまれましたが、盛況のうちに今年度のNIMDフォーラムを終了することができました。今後も、水銀研究をさらに推進していくため、NIMDフォーラムを通じて、多くの方々に最新の水銀研究成果を発信していきたいと考えています。



百間排水口の見学

国水研の動き

（平成二十四年十月～平成二十四年十二月）

十月九日

住居環境による環境都市づくり

（水俣市）

（ブラジル・メキシコ・モロッコ・タイ・ベトナム）

十月十日

水環境モニタリング

（日本環境衛生センター）

（中国・エジプト・インドネシア・マラウイ・

メキシコ・パナマ・フィリピン・セルビア・

シンパフエ）

十月二十日

健康セミナー「在宅医療の話」

十一月九日

名城大学（小嶋教授）来所

お知らせ

★第二十七回 健康セミナー
を開催しました♪

十月二十日(土)に情報センターで第二十七回健康セミナーを開催しました。今回は、「在宅医療」をテーマに竹本医院 医院長 森謙一郎先生にご講演いただきました。

在宅医療は、様々な障害によって通院困難になった患者さんに対して定期的に訪問診療を行うことで、自宅に居ながら診療を受けることが出来るため、家族と共に生活が送れ、自分の生活スタイルに合わせて治療を受けることが出来ます。住み慣れた自宅で療養していきたいという要望の下、在宅医療は外来や入院に次いで第三の医療として毎年増加の傾向にあります。

講演の後半には来場された方々の御質問に対して先生からアドバイスなどをいただきました。

健康メモ

『睡眠と健康について』

睡眠は人生の約3分の1を占めます。睡眠は体の疲れを取るために必要ですが、もっとも大事な点は脳を休めるためです。睡眠中はさまざまなホルモンが分泌され、体を修復し、新陳代謝を促します。また、睡眠には免疫力を高める役割もあります。

睡眠不足が続くと、自律神経のうちの交感神経が過度に緊張し、カゼをひきやすくなります。睡眠をとらないと、体力低下、注意力低下、判断力低下、作業効率の低下といった弊害が起きます。睡眠の必要量にはかなり個人差があり、年齢・日中の活動度・体調などによっても大きく変わってきます。基本的に日中眠気がなく、ふだんの生活をするのに問題がなければ、睡眠時間にこだわる必要はないといわれています。

グッスリ眠るための就寝1〜2時間前の生活習慣として

- ① ぬるめのお風呂に浸かる。
 - ② 肉類や水分を取り過ぎない。
 - ③ 激しい運動はしない。
 - ④ 心身をリラックスする。
 - ⑤ コーヒーや濃いお茶を避ける。
 - ⑥ 寝酒よりホットミルクを飲む。
- などの心がけが大切です。
- 質の高い睡眠をとって、生き生きとした毎日をお過ごし下さい。

臨床部 宮本(謙)

編集後記 本日のとんとん峠

二〇一二年も残すところあとわずかとなりました。

本年七月の豪雨により、阿蘇地域・熊本市北部地域を中心に甚大な被害が発生し、今なおその爪痕のこっているところも少なくありません。しかし、被災地域の復興は進んでおり、報道等で取り上げられるたび、元気をいただいている方も少なくないのではないのでしょうか。

とんとん峠では皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。左記のメールアドレスまでお気軽にお寄せください。

EXメール mai@nimd.go.jp

アクセスマップ

